

平成30年度 近畿大学泉州高等学校 学校評価

1 めざす学校像

本校の校訓である「誠実」「礼節」「友愛」の精神を育むとともに、近畿大学の教育の目的である、人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成することをめざす。

- * 育てたい生徒像：他人を思いやれる心を有し、社会に有為な人材と認められる生徒
- * 目標とする学校像：自主・自立の精神のもと教員、生徒がともに人間的に成長する場

このような観点から、あらゆる教育活動を通して主体的に学ぶ学校環境を作る。

2 中期的目標および実施項目

A 確かな学力の育成

近畿大学特別推薦入試制度の理念（リーダー養成、自校理解教育、確かな学力）を踏まえ、以下の項目について改善する。

- ア 英語検定、漢字検定、数学検定、GTEC、TOEICなどの検定合格率および得点増を目的とする補習授業を導入し、学年ごとの一斉受験機会を設定する。上記項目に関しては、自己評価にて結果を分析し、次年度への目標設定とする。
- イ 基礎学力アップの補習、国公立大学入試対策補習の導入により、生徒の実態に応じて学力を伸ばす態勢を作る。
- ウ 理系クラスを少人数クラス展開とし、学力の向上をはかる。物理、生物、数学において能力別少人数クラスの設定を行う。
- エ 図書館活動を活性化し、読書量の増加を目指す。
- オ 放課後サテライト授業の受講希望者増加にともない、サテライト教室・自習室の整備・拡張を行い、学年ごとに受講・自習できる環境整備を行う。
- カ 大学広報担当者による講演会、外部講師（英語、国語）による大学入試対策講座を実施する。
- キ 大学入試および学力アップのための教員対象研修会を実施する。
- ク 英語科教員の英語力伸長のため、セブ島での語学研修を教員も受講する。

B 進路希望の実現

- ア 近畿大学および国公立大学志願者を増加させる。
- イ 薬学部、歯学部、看護学部など医療系学部の受験に対応した選択授業科目を設定し、細やかな指導を行って合格へつなげる。
- ウ 私立大学文系学部志望者へも数学、理科の教科指導を行い、基礎学力を高める。
- エ 大学オープンキャンパスへの参加、病院見学の機会等を増やし、志望動機を高める。

C リーダーシップ、人間力を高める取り組み

- ア 生徒会活動、クラブ活動を生徒主体に運営させていく。
- イ 体育祭、文化祭、入学式、卒業式などを生徒会主体の運営へ移行していく。
- ウ いじめアンケートなど生徒の意識に関するアンケートを実施することにより、クラス内弱者をなくす意識を涵養する。各学期に1度、年間3回のアンケート調査を実施する。
- エ AED講習を高校2年生全員に受講させる。薬物乱用に関する講演会を全校生徒に行う。性に関する講演会を高校1年生、3年生対象に実施し、生命、生活に対して確かな知識と意識を涵養する。

D グローバル化への対応

- ア 希望者対象に、1年間留学、3ヶ月留学、2週間語学研修をアメリカ・オレゴン州にて実施している。参加者は各学年の10%程度であるが、今後、参加者が増加するように研修時期、研修後に欠席した通常授業の補完を考慮する。
- イ 全生徒対象に、ハワイ修学旅行においてハワイ大学の英語講習を受講している。1学年研修において外国人留学生との国際交流を実施している。
- ウ アの参加者および希望者に対して、近畿大学英語村特別プログラム受講を実施している。
- エ ポートランド語学研修とは別にフィリピン・セブ島でのマンツーマン英会話研修(2週間)を平成30年度より実施している。この研修は、英語科教員の語学力向上研修を兼ねており、英語科教員が毎年2名程度受講している。

E 地域・保護者との連携、社会貢献について

- ア 地域への貢献活動として、芸術鑑賞会（桂ざこば師匠一門の落語会）を本校にて行い、午後の部を近隣住民の方へ無料で鑑賞していただいている。
- イ 文化祭を近隣住民へ開放し、バザーでの収益を被災地義捐金としている。
- ウ 近隣の清掃活動（牛滝川）に参加している。
- エ 山滝地区の祭礼（だんじり祭り）およびマラソン大会に参加している。
- オ 近隣青年団ソフトボール大会に本校グラウンドを貸与している。
- カ 駅前啓発活動（ストップ飲酒運転、交通安全など）などの岸和田警察署の活動や税務署の活動への協力を行っている。
- ク 保護者会向け講演会（親子の対話、子どもの食事）、授業参観を実施している。
- ケ 保護者、生徒向け一斉メールはほぼ全保護者・生徒が加入したため、緊急時（災害など）の連絡が確実に取ることができた。また、一斉メール配信を学年ごとに設定変更したため、保護者が必要な連絡内容を十分に把握できるようになった。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 31 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○保護者アンケート</p> <p>【33 項目中「(よく) あてはまるの割合が 85%以上の項目】</p> <p>①学校の特色は、進路目標の実現である。94.2%</p> <p>②学習評価(定期考査、提出物等)は、適切である。93.9%</p> <p>③生徒は、全体として校則をよく守っていると思う。92.4%</p> <p>④学校では、生徒の個人情報がよく守られている。92.1%</p> <p>⑤学校は、基本的な社会ルールを守る態度を育てようとしている。91.8%</p> <p>⑥保護者として、この学校に通わせて満足している。89.5%</p> <p>⑦先生は、問題が起こればすぐに対応してくれる。89.3%</p> <p>⑧学校の施設・設備は、丁寧に使われている。88.6%</p> <p>⑨学校は、校内での事故防止に施設設備面で配慮している。88.6%</p> <p>⑩学校は、生徒の進路に関する情報を適切に提供している。87.8%</p> <p>⑪子どもは、学校行事に積極的に参加している。87.3%</p> <p>⑫授業に先生の熱意が感じられる。86.6%</p> <p>⑬授業参観や研究授業などが適切に設けられている。86.0%</p> <p>⑭学校の教育方針が保護者に適切に伝えられている。85.8%</p> <p>⑮子どもは、授業はわかりやすく、丁寧に教えてくれると言っている。85.8%</p> <p>⑯先生は、生徒の悩みや相談を聞いて、すぐに対応してくれる。85.7%</p> <p>⑰生徒指導において、家庭との連携ができています。85.6%</p> <p>⑱学校で、子どもの進路について先生が丁寧に指導してくれる。85.0%</p> <p>【33 項目中「(よく) あてはまるの割合が 70%未満の項目】</p> <p>①学校の行う進路説明会の内容は、盛り沢山で興味関心がひかれる。67.5%</p> <p>[分析]</p> <p>概ね高評価の項目が多く、至急改善を要する事項は見られなかった。進路目標の実現という学校の特色への理解やそのための取り組み、さらには規範意識を育てる生徒指導への理解もそれなりに得られていると言える。施設・設備面でも決して新しいものばかりではないが、使用や安全面での配慮については、一定の評価を得ている。進路説明会については、生徒の希望進路の変化にも合わせてさらなる内容の充実を図っていきたい。</p> <p>○教職員アンケート</p> <p>①学校の教育方針・目標を教職員、学校関係者が理解している。80.0%</p> <p>②教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて、教育活動が行われている。72.0%</p> <p>③高大連携協定を結んだ大学と連携体制が整い、指導が行われている。96.0%</p> <p>④生徒は、全体として校則をよく守っていると思う。88.0%</p> <p>⑤いじめが生じた際に学校全体で組織的に対処する体制がある。88.0%</p> <p>⑥職員会議をはじめ、各種会議が、有効かつ効果的に機能している。60.0%</p> <p>⑦子どもは、学校行事に積極的に参加している。96.0%</p> <p>⑧生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように学校全体で支援している。56.0%</p> <p>⑨事故・事件・災害時に対処する役割分担が明確にされている。76.0%</p> <p>⑩積極的に募集活動が行われ、定員を充足する努力がされている。92.0%</p> <p>[分析]</p> <p>教職員の自己評価については、高評価とはいえ項目もいくつか見られる。募集活動については、31 年度でさらに入学者が増加したことから、この状況を継続していきたい。各種会議の運用については、短時間で済む効率的な面はあるが、その有効性について、見直すべきところは改めていきたい。生徒会活動については、31 年度から各種行事において生徒会がさらに主体性をもって取り組むように改革を進めているので、次年度以降の改善が期待できる。</p>	<p>○生徒・保護者</p> <p>1. 生徒間のトラブルを深刻なものとしなないように、今後とも生徒間の些細な動きから変化を把握できるよう、注意深く指導していく必要がある。</p> <p>2. 昨年度から生徒会ボランティアスタッフの活動が活発化し、一定人数(約 50 名)が活動している点は評価できる。</p> <p>3. クラブ活動が近年徐々に活性化しており、文化部への加入者増が顕著である。PTA からも文化部支援特別予算(年間 10 万円程度)を予算化し、生徒数、クラブ数の増加にともない、増額を行う。</p> <p>4. 保護者の意識傾向として、子どもが大学進学のために学習することを期待する傾向が大きくなっているほか、留学等についての関心も高まっている。そのような中で進路保障やグローバル化への対応プログラムが充実していることは評価できる。</p> <p>5. 授業参観への来校者は、高校 1 年生保護者を中心に来校割合が増加している。体育祭、文化祭や保護者対象の研修会等の学校行事にも保護者が積極的に参加していることは評価できる。</p> <p>6. 年 2 回の保護者、生徒、クラス担任による三者懇談会や授業参観時の学級懇談会など、保護者の意見を聞くことが出来る機会は用意されているが、進路説明会などにおいても内容をさらに充実させるとともに、保護者からの意見を聞ける機会を積極的に設けるべきである。</p> <p>○教職員</p> <p>1. 労働管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日学校閉鎖を実施している。 ・校務運営委員 14 名による当番制の施錠によって平日 19 時、土曜日 17 時の完全施錠が行われている。 ・火曜、木曜、土曜の放課後補習は学年ごとに実施教科、担当教員を決めて行っており、補習手当が支払われている。 ・強化クラブである野球部や男子バレー部の指導者については平日 1 日を休業日として出勤および授業なしとし、日曜日の練習や試合での勤務と振り替えている。 <p>以上のことは評価できる。</p> <p>2. 教職員研修</p> <p>近畿大学入学センター職員による研修、近畿大学附属中高教員による ICT 教育研修、大学進学予備校によるセミナー参加、予備校講師による校内での授業見学など教職員向け研修会が年々多く開催されていることは評価できる。ただ、教職員対象研修会が多くなりすぎても研修内容を教職員が消化しきれず、授業への取り組みに支障がでるようでは本末転倒の結果となることに留意して、研修会を年間計画に基づいて定期的の実施すべきである。</p> <p>3. 財務状況および校舎改修工事など</p> <p>財務状況は近年好転している。ただ、平成 31 年度入学生を定員確保することで、安定した財務状況となるため、当面は、各年度ごとの財務状況にあわせた改修工事を行うことが必要であり、そのことへの教職員の理解を求める努力を行うべきである。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 英語検定、漢字検定、数学検定、GTEC、TOEICなどの検定合格率および得点増を目的とする補習授業の導入および学年ごとの一斉受験機会を設定する。</p>	<p>(1) 各種検定の実施計画・内容 3検定の実施時期 (学年統一実施) *統一実施回以外は希望者受験 ①英語検定 高校1年次9月 高校1年次2月 高校2年次1月 ②漢字検定 高校1年次6月 高校2年次10月 ③数学検定 高校1年次2月 高校2年次2月</p> <p>(2) 基礎学力定着度の指標として総合評価を行う。 (英語検定、漢字検定、数学検定の取得級を得点化し合計する。)</p>	<p>(1) 平成29年度入学生の高校2年終了時点での取得級と割合 (平成30年度末集計、在籍者数215名)以下、30年度合格者数。()内は平成29年度→30年度の合格割合の変化を示す。 ①英語検定 目標 2級取得35% 2級 21名(14.2%→9.8%) 準2級55名(50.7%→25.6%) 3級 101名(31.8%→47.0%) ②漢字検定 目標 準2級以上50% 2級 3名(2.0%→1.4%) 準2級48名(39.2%→22.3%) 3級 118名(36.5%→54.9%) ③数学検定 目標 準2級以上50% 準1級0名(0%→0%) 2級 12名(4.1%→5.6%) 準2級54名(23.0%→25.1%)</p> <p>(2) 平成29年度より2年終了時点での漢字検定、英語検定、数学検定の級毎の合格率および、3検定の総合評価を分析し、対策を実施している。総合評価については、各検定合格級を以下のように得点化している。 英語検定 2級;6点 準2級;4点 3級;1点 漢字検定 2級;6点 準2級;4点 3級;1点 数学検定 準1級;8点 2級;5点 準2級;2点</p> <p>総合評価(得点合計) 目標;総合得点6点以上の割合45% 結果;63名(45.3%→29.3%) 12点以上 11名(6.8%→5.1%) 9点~11点 15名(10.1%→7.0%) 6点~8点 37名(25.0%→17.2%) 3点~5点 64名(43.2%→29.8%) 0点~2点 88名(59.5%→40.9%)</p>	<p>(1) ①英語検定について (改善を早急に行うべき) 高校2年終了時までの英語検定2級合格率が10%程度であり、前年度よりも低下しているのは、改善が必要である。現在実施している英検一次試験対策の放課後補習、2次試験対策の個別指導の一層の充実をはかるだけでなく、1次試験での不合格者にリスニングでの低得点者が多いことから、授業その他の機会においてリスニング指導の機会を増やす必要がある。また、学年統一受験日以外の受験日でも積極的に受験するように指導し、受験機会を増やすことも必要である。 ただ、英語検定については、大学入学共通テストに対応した4技能英検が平成31年度から開始されることから、1・2年次での英語検定の受験の仕方については、情報収集しながら慎重に進めていく必要がある。 ②漢字検定について (改善を早急に行うべき) 授業の中でも漢字学習に力を入れたり、自習時間に過去問題に取り組みさせるなどの対策を行ったが、合格率が低下している。合格率上昇のためには、部首や対義語・類義語など、単に書き取りや読みにとどまらない対策を年間計画に基づいて実施する必要がある。 ③数学検定について (今後も努力継続が必要) まだまだ目標到達には遠いが、3検定の中で唯一前年度に比べてわずかながら合格率が上昇している。授業の解説の中で数学検定の出題傾向に触れたり、検定の問題を朝の学習や掲示物等で扱う機会を増やすなどの対策を行ったが、根本的な数学基礎力を定着させる必要があると思われる。平成30年度からは入学時3コースで共通の数学教科書、問題集を使用し、数学基礎力を定着させる授業を実施しており、近年の傾向とされる「理系離れ」に歯止めがかかるように努めたい。準1級については試験範囲が数学Ⅲ中心であるため高校2年終了時で受験させることは難しいが、2級、準2級については、さらに対策が必要である。</p> <p>(2) 総合評価の結果は、全体的に前年度より低下しており、目標であった総合得点6点以上の生徒割合45%を大きく割っている。各検定の自己評価を踏まえてそれぞれの合格率を上げるとともに、生徒各個人の総合得点を常に把握させ、対策へのモチベーションにするとともに、統一受験日以外の受験を勧める際の材料としていく必要がある。 また、31年度以降は、英語における4技能試験へのシフトも始まることから、英語検定および総合得点の取得目標についても新たに設定する必要がある。</p>
2 リーダーシップ、人間力を高める取り組み	<p>(1) 生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の活性化</p> <p>(2) 地域との関わりおよび貢献活動を積極的に行う</p>	<p>(1) ①入学式、卒業式、体育祭、文化祭、外国人留学生の歓送迎行事、オープンスクールなど各種行事における運営 ②芸術鑑賞会での老人誘導、車いす搬入など ③文化祭でバザーを実施し、収益を被災地義援金とする活動 ④歳末募金活動</p> <p>(2) ①芸術鑑賞会(桂ざこば師匠一門の落語会、本校で実施)への近隣住民の方の無料招待 ②文化祭の近隣住民の方への開放 ③老人介護施設慰問 ④近隣(牛滝川)の清掃活動への参加 ⑤山滝地区の祭礼(だんじり祭り)への参加 ⑥山滝地区マラソン大会への参加 ⑦大阪府警音楽隊による交通安全講習に参加 ⑧岸和田警察署・税務署との活動に参加</p>	<p>(1) 目標;活動人数、活動数の増加 生徒会ボランティアスタッフ加入者;53名→50名 活動数;年間1回増加 活動数・活動人数は大きく変わらないものの、各種行事において生徒会および生徒会スタッフが中心に運営にかかわるようになった。</p> <p>(2) ①②学校行事の一部について、近隣の方々にも参加いただき、交流を深めた。 ③吹奏楽部、合唱部が参加 ④⑤野球部員を中心に参加 ⑥地域体育行事に野球部、陸上部が参加 ⑦交通安全人文字を制作 ⑧警察署、税務署との活動 交通安全啓発・飲酒運転撲滅運動(駅前啓発活動にも参加) / STOP 薬物 / 詐欺被害防止 / 税の作文 以上の活動への参加</p>	<p>(1) 各種行事における生徒会および生徒スタッフの活動を企画・立案を含めた主体的なものに転換している。体育祭では、生徒会が考案・準備した種目を実施したり、オープンスクールにおいては生徒が中学生や保護者に直接説明する機会を増やしている。今後、それらの活動を、生徒会担当教員だけでなく、学校全体で支援する体制を整えていく必要がある。</p> <p>(2) 地域、地元税務署および警察署との協力関係は良好であり、今後も引き続き協力関係を築いていくべきである。近隣は少子化、高齢化が進み老人が住民の大半を占めるようになり、地元の「だんじり祭り」にはだんじりの曳手が少なく本校生徒のボランティア参加なくしては成り立たない状況である。近隣自治会、青年団より本校活動には感謝と今後の協力要請があることから、引き続き近隣地域への貢献活動を行い、今後の高齢化社会での貢献を生徒が学習する機会とするべきである。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3 中長期的計画及び目標	(1) グローバル化への対応と取組	(1) ア 長期留学 イ 2週間語学研修 ウ セブ島英語集中研修 エ ハワイ修学旅行	(1) 目標；海外研修行事への参加者数を増加させる。 ア 長期留学生 29年度4名→30年度3名 イ ポートランド語学研修 29年度12名→30年度7名 ウ セブ島英会話集中研修 30年度 生徒5名 教員2名 参加	(1) ア～ウ 海外研修行事参加者数の増加はなかったが、平成30年度から、アメリカ・オレゴン州での長期留学、語学研修に加えて、フィリピン・セブ島でのマンツーマン英会話集中研修(2週間)を実施した。この研修は英語科教員の研修を兼ねており、今後も継続していきたい。 エ ハワイ修学旅行については、生徒数増加とともに宿泊先、利用航空機便の変更を余儀なくされ、為替相場変動によるコスト高に対して、対費用効果の高い研修内容を検討すべきである。
	(2) 健全な経営状況の維持	(2) ア 生徒募集における定員確保 イ 耐震工事計画	(2) ア 目標；経営の健全化 イ 平成30年度耐震工事实施	(2) ア オープンスクール参加者、説明会参加者の増加が入学生徒数の増加につながった。また、本校生徒(生徒会ボランティアスタッフ、クラブ員)による案内や説明は、本校の実像を見てもらうのによい機会であり、新入生アンケートからは、それが本校受験につながっていることが読み取れる。今後も生徒募集活動には一層の努力が必要であるが、人間力・学力において本校の求める生徒像により近い生徒に入学してもらい、それをさらに伸ばさせていくことに主眼を置いていきたい。 イ 耐震工事については、基金積立計画に基づき平成30年度にA棟耐震工事、教室整備を実施した。

本年度の取組内容及び自己評価(上記)への学校協議会からの意見

<p>1 確かな学力の育成について</p> <p>ア 英語検定合格者を伸ばすことに尽力すべきである。高校2年末での英語検定2級合格者が昨年度より低下し、10%程度となっているが、今後は20%～30%へ伸ばし、最終的には35%を超えるよう平常授業から改善をはかる必要がある。また、漢字検定、数学検定等の得点率を上げることも重要である。</p> <p>イ 近畿大学および国公立大学志願者を増加させるよう学力を高める方策を取っていることは評価できる。特に、放課後補習の充実、予備校映像授業が受講できるよう教室整備を行ったこと、学習合宿に予備校講師・大学教員を招聘して授業を行ったことは評価できる。</p> <p>本校としては難関国立大学(東京大学など)を目指すのではなく、より多くの生徒を近畿大学のほか、大阪市立大、府立大、教育大など地元国公立大へ進学させることを主眼とした態勢を構築することが重要である。</p> <p>近畿大学進学者へのケアとして激励会、進学後の状況調査および指導を実施している。これは、留年者や中途退学者減少に効果があり、今後も継続して行うべきである。</p> <p>現時点での大学進学浪人生は各学年10名程度であるが、今後増加すると予想されるので、浪人生のケアを行う部署を新設すべきである。</p> <p>2 リーダーシップ、人間力を高める取り組みについて</p> <p>ア 生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の幅が広がっていることは評価できる。今後、各種行事の運営を生徒会に委ね、教員指導のもと生徒の主体性や創造力、表現力を伸ばしていくべきである。</p> <p>イ 生徒数600名の小規模校としては地域への貢献活動が多岐にわたっており、近隣住民の評判が良い。今後も継続して活動するとともに、近隣住民の高齢化が進んでいることから、高齢者が満足できる活動を模索することが必要である。</p> <p>ウ リーダー養成については高校段階で行う内容と大学が行う内容と区別が無く、現時点では、グローバルリーダー養成などを高校が行うものと認識されているが、高校で出来ること、本来大学で行われるべきことの差異を考察し、今後も慎重に対応すべきである。</p> <p>エ 人間力の涵養については、本校生徒には入学後短期間で礼儀、挨拶の習慣が定着している点が評価できる。今後も日常の教育活動を通して、自主・自立の精神、人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成するための活動内容を精査すべきである。</p> <p>3 中長期的計画及び目標について</p> <p>ア グローバル化への対応については、ハワイでの修学旅行以外に、長短4種類の海外留学(語学研修)プログラムが用意されていることは評価できる。今後は成果の検証にも重点を置きながら内容をさらに充実させることと、欠席期間の授業内容についての補完にも配慮すべきである。</p> <p>イ 生徒募集が安定して経営が健全化していること、計画に基づき耐震工事や教室整備を進めていることは評価できる。今後の整備計画については、生徒の安全・安心にかかわる部分については最優先で行いながら、全体については中長期的視野に立ってしっかりと計画的に行うべきである。</p> <p>4 その他</p> <p>ア 自己評価アンケートでの「要改善」項目をなくすよう努力すべきである。保護者への連絡や教員間の情報共有をより密にすることが重要であると思われる。</p> <p>イ HPについては、すべての行事について最新の内容がアップされており、学校内の様子が良くわかる点は評価できる。</p> <p>学校協議会学外委員 弁護士1名、大学教授1名、PTA会長1名、教育後援会会長1名、地域連合自治会長1名、学園理事・評議員1名 学校協議会学内委員 学園専務理事、校長、副校長、事務長、教務部長</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
